〈共同研究〉
「事業承継と地域産業の発展―京都の場合―」

丹後の伝統産業に関する高校生の意識

松岡憲司

京丹後市をはじめとする京都府丹後地域の代表的伝統産業といえば、丹後縮緬として知られる絹織物の産業であろう。江戸時代以来の約280年という長い歴史[1]をもつ絹織物業であるが、最近の生産高は最盛期の10分の1以下にまで落ち込んでしまっている。絹織物製造に従事する人々の高齢化も著しい。それに代わって、製造業の中でもっとも大きな割合を占めるようになったのは機械・金属業である。丹後の機械・金属業は第二次大戦後より発展した産業で、絹織物業に比べると、まだまだ浅い歴史であるが、近年では丹後地域の出荷額でもっとも大きな割合を占める所にまで成長してきている。また、冬のカニ、夏の海水浴を中心とする観光業も地域の産業として重要である。さらに農業は地域に根ざした産業である。このように繊維、機械・金属、観光、農業は丹後を代表する産業といってよいであろう。

地域の産業、とくに伝統産業は、これまでの何世代にもわたる先人達の努力によって築き上げられてきたものである。ただ引き継いできただけでなく、技術や技能を磨き上げてきた賜物である。このような伝統を持続するためには、これからの世代の人たちが事業を継いでいかなければならない。現在、多くの地域産業において後継者難が指摘されており、事業承継を円滑に進めるための政策支援も実施されている。実際にこれから仕事に従事していく若い世代は、地元の産業についてどのように考えているのであろうか。

そこで、われわれは、丹後地方の地元高校生に繊維業、機械・金属業、観光業、農業の現状や将来性について、どのような意識をもっているかを明らかにするためのアンケートを実施した。

アンケートは、京丹後市内の京都府立峰山高校の生徒さんたちにホームルームの時間に回答していただいた。時期は2011年の3月である。その結果、260件の回答をいただいた。一部に無効回答があり、分析対象としたのは259件の回答である。内訳は、男子117名、女子134名、性別記入なしが8名であった。また普通科が180名、デザイン系統が9名、機械系統が28名、農園芸科が17名、家政科が17名、記入なしが8名である。

1、現在、あなたの血縁者は繊維業、機械・金属業、観光業、農業に携わっていますか（複数回答可）

まず、血縁者がこれら産業に従事しているかどうかを尋ねた。血縁者の範囲は、「父母」、「祖父母」、「兄弟、姉妹」、「おじ、おば、いとこ」までとした。

回答は、表1に示されているように、「父母」では機械・金属業に従事している場合がもっとも多く44人（全体の17.0％）であった。伝統産業である繊維業の場合は16人（6.2％）と若干少なかった。「祖父母」についてはもっとも多かったのは農業で56人（21.6％）で、繊維業では20人（7.7％）であった。農業は、「祖父母」が多いのに対して、「父母」の従事者数は少なく、農業においても高齢化が進んでいると思われる。

表1　各産業への血縁者の従事（複数回答可）

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, 父母	16	6.2	44	17.0	5	1.9	11	4.3
2, 祖父母	20	7.7	6	2.3	2	0.8	56	21.6
3, 兄弟、姉妹	0	0.0	12	4.6	1	0.4	0	0.0
4, おじ、おばいとこ	8	3.1	10	3.9	4	1.5	10	3.9
5, 誰もいない	105	40.5	103	39.8	114	44.0	91	35.1
6, わからない	34	13.1	32	12.4	35	13.5	32	12.4
記入者数	178	68.7	189	73.0	160	61.8	187	72.2
無記入	81	31.3	70	27.0	99	38.2	72	27.8
合計	259		259		259		259	

出所：本研究グループで実施したアンケート結果にもとづく。以下の表も同じである。

興味深いのは、繊維業で「父母」よりも「祖父母」の人数が多かった点である。丹後の繊維業では、従業者の高齢化が進んでいることを反映しているものと思われる。また繊維業で「父母」と「祖父母」がともに従事しているという回答は4人（1.5%）であった。

2、過去、あなたの血縁者は繊維業、機械・金属業、観光業、農業に携わっていたことがありますか（複数回答可）

次いで、過去に血縁者が各産業に従事していたかどうかを尋ねた。ここで特徴的にあらわれているのは、過去「祖父母」が繊維業に従事していたという回答が56人（21.6%）と非常に多かったことである。これは、かつて丹後において繊維業が隆盛を誇っていたことを反映していると思われる。一方、機械・金属業に従事していた「祖父母」は12人（4.6%）と少なく、同産業の歴史がまだ浅いことを示している。また、農業においても、過去従事していた「祖父母」が36人（13.9%）と少なくないことも注目される。

「祖父母」と「父母」が共に従事していたという回答は、繊維で7人（2.7%）、機械金属で2人（0.7%）、観光で3人（1.2%）、農業で4人（1.5%）とどの産業もあまり多くなかった。

3. 過去・現在に血縁者が携わっていた方にのみ伺います。

あなたは、将来、現在・過去に血縁者が携わっていた業界への就職を希望しますか。

現在あるいは過去に血縁者が各産業に従事していたと回答した人に、将来その業種の仕事に従事したいかどうかを尋ねた。高校2年生であるので、まだ将来を決めていない生徒さんも多いと思われ

表2　各産業への血縁者の過去の従事（複数回答可）

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, 父母	17	6.6	13	5.0	6	2.3	7	2.7
2, 祖父母	56	21.6	12	4.6	6	2.3	36	13.9
3, 兄弟、姉妹	0	0.0	3	1.2	1	0.4	0	0.0
4, おじ、おばいとこ	7	2.7	5	1.9	5	1.9	8	3.1
5, 誰もいない	70	27.0	86	33.2	93	35.9	77	29.7
6, わからない	53	20.5	58	22.4	59	22.8	53	20.5
記入者数	190	73.4	170	65.6	165	63.7	173	66.8
無記入	69	26.6	89	34.4	94	36.3	86	33.2
合計	259		259		259		259	

表3　各業界への従事を希望するか（過去・現在に血縁者が携わっていた人）

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, はい	2	1.6	12	9.8	3	3.0	4	3.5
2, いいえ	88	68.8	71	58.2	67	67.7	68	59.7
3, どちらとも言えない	38	29.6	39	32.0	29	29.3	42	36.8
合計	128	100.0	122	100.0	99	100.0	114	100.0

るが、この質問に回答してくれた方の半数以上が「はい」あるいは「いいえ」を明確に答えてくれた。

その産業に従事したいと答えた人の割合が高かったのは機械・金属で12人（回答者の9.8%）であった。伝統産業である繊維業の場合、血縁者が従事していても、2人（同1.6%）にすぎなかった。逆に、「いいえ」、つまりこの業種につきたくないと答えた人の割合は繊維業（88人、68.8%）、観光業（67人、67.7%）が60%を超えていたのに対して、機械・金属業は71人（58.2%）、農業（68人、59.7%）と若干低かった。

3－1、3項で「はい」と答えた方へ、その理由は次のどれでしょうか。（複数回答可）

血縁者が各産業に従事している生徒さんの中で、その産業に従事すると答えた人の数は大変少なかったが、その従事すると答えた理由を尋ねた。繊維業の場合、「この産業に興味があるから」があげられた。機械・金属業では「この産業に興味がある」を筆頭として、「この産業に関する勉強をしているから」、「現在の家業である」が続いた。次いで「自分に向いている」もあげられた。観光業の場合には、「この産業に興味がある」がもっとも多く、その他の要因はそれぞれ1人であった。農業の場合には、いろいろな要因に分散した結果となった。

3－2、3項で「いいえ」と答えた方へ、その理由は次のどれでしょうか。（複数回答可）

家族が従事している産業に従事したくないと答えた回答者があげた理由は表5に示されている。どの産業についても、もっとも高い比率を示したのは、「他にしたい仕事があるから」という回答で、70%を超えていた。

注目しなければならないのは、繊維業で「将来性が乏しい」という理由をあげた回答者が25.3%で二番目に多かったことである。繊維業の長期的な衰退を高校生も感じていることを反映していると思われる。

4、今まで各産業に血縁者が携わっていない方へ、あなたは、将来、現在・過去に血縁者が携わっていなかった各業界への就職を希望しますか。

現在あるいは過去に血縁者が各産業に従事していたことがないと回答した人にも、将来その業種

表4　家族が従事している産業に、自分も従事したいと思う理由（複数回答可）

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
回答数	2		12		4		4	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, 現在の家業である	1	50.0	4	33.3	1	25.0	1	25.0
2, 伝統ある地域産業だから	0	0.0	1	8.3	0	0.0	1	25.0
3, この産業に興味があるから	2	100.0	6	50.0	2	50.0	1	25.0
4, この産業に関する勉強をしているから	0	0.0	4	33.3	0	0.0	0	0.0
5, 自分に向いてると思うから	0	0.0	3	25.0	1	25.0	0	0.0
6, 将来性があるから	0	0.0	2	16.7	1	25.0	0	0.0
7, その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0

表５　家族が従事している産業に、自分は従事したくないと思う理由（複数回答可）

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
回答数	83		67		62		68	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, 地元を出たいから	19	22.9	15	22.4	11	17.7	20	29.4
2, 他にしたい仕事があるから	62	74.7	52	77.6	47	75.8	49	72.1
3, 将来性が乏しいと思う	21	25.3	8	11.9	8	12.9	14	20.6
4, 仕事内容がキツい	0	0.0	2	3.0	3	4.8	6	8.8
5, 賃金や休みなどの待遇が悪い	8	9.6	3	4.5	6	9.7	8	11.8
6, 両親や親戚が反対している	1	1.2	1	1.5	1	1.6	3	4.4
7, その他	2	2.4	1	1.5	2	3.2	1	1.5

の仕事に従事したいかどうかを尋ねた。ここでもこの質問に回答してくれた方の半数以上が「はい」あるいは「いいえ」を明確に答えてくれた。

その産業に従事したいと答えた人の割合が高かったのは機械・金属で６人（回答者の6.1％）であった。次いで観光業で５人（5.3％）であった。伝統産業である繊維業には１人（1.1％）にすぎなかった。逆に、「いいえ」、つまりこの業種につきたくないと答えた人の割合はどの産業についても60％を超えていた。繊維業（61人、64.2％）と機械･金属業（63人､64.3％）の間にも差がなかった。

４－１、４項で「はい」と答えた方へ、その理由は次のどれですか。（複数回答可）

血縁者が従事していない産業に自分が従事しようという回答者は非常に少なく、その理由の分布をみてもあまり意味はないが、その内容は表７のようであった。

４－２、４項で「いいえ」と答えた方へ、その理由は次のどれですか。（複数回答可）

血族が従事していない産業に、自分も従事しない理由は表８のようになっている。

家族が従事している場合と同じように「他にし

表６　血縁者が従事していない産業へ、自分が従事するつもりがあるか

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, はい	1	1.1	6	6.1	5	5.3	1	1.1
2, いいえ	61	64.2	63	64.3	58	61.1	61	65.6
3, どちらともいえない	33	34.7	29	29.6	32	33.7	31	33.3
合計	95	100.0	98	100.0	95	100.0	93	100.0

表７　血縁者が従事していない産業に、自分が従事しようという理由（複数回答可）

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
回答数	2		8		6		1	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, 伝統ある地域産業だから	2	100.0	0	0.0	1	16.6	0	0.0
2, この産業に興味があるから	1	50.0	3	37.5	6	100.0	0	0.0
3, この産業に関する勉強をしているから	1	50.0	3	37.5	0	0.0	0	0.0
4, 自分に向いていると思うから	1	50.0	4	50.0	0	0.0	1	100.0
5, 将来性があるから	0	0.0	0	0.0	2	33.3	0	0.0
6, 技術が身につくから	1	50.0	1	12.5	2	33.3	0	0.0
7, その他	0	0.0	1	12.5	0	0.0	0	0.0

たい仕事があるから」という理由の比率がもっとも高かった。

将来性について、繊維業の場合、家族が従事している場合ほどには高くなかったが、それでも17.0%と他の業種よりは高い比率を示していた。

5、どのような点を改善すれば、各産業に従事する人が増えると思いますか。(複数回答可)

血縁者が従事しているかどうかを問わず、各産業に従事する人の数を増やすためにはどのような点を改善する必要があると思うかを尋ねた。

まず繊維業については、「産業の将来性」をあげた回答者が、わずかながら「賃金」を上回った。将来、繊維産業に従事したくない理由でも「産業の将来性」をあげる回答者が多かったことが示すように、高校生の間でも、丹後の繊維業の将来性に懸念が抱かれていることがわかる。

繊維業以外の産業では、まず「賃金」の改善をあげる回答者が多かった。賃金は職種や職場を決める上でもっとも重要な要因であるから、これが上位にくるのは当然であろう。

「賃金」に続くのは、いずれの産業も「産業の将来性」であった。農業をめぐっては、国際的な経済連携協定などによって、輸入圧力が高まることなどを懸念しているのかもしれない。

6、将来の進路

将来の進路希望について尋ねたところ、188人(74.9%)が進学希望で、就職希望は41人(16.3%)、未定が22人（8.8%）であった。大学等卒業後も含む将来就職したい地域では地元丹後で就職したいという回答が38人（15.1%）で、京都市が30人（11.9%)、丹後・京都市以外の京都府が12人(4.8%)となっており、京都府合計で80人(31.7%)であった。京都府以外の関西は56人(22.2%)、関東は16人（6.3%）であった。なお、未定という回答が88人（34.9%）あった。

大学等卒業後も含む将来の希望職種は表10の

表8　血縁者が従事していない産業に、自分が従事しない理由（複数回答可）

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
回答数	53		56		52		52	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, 地元を出たいから	16	30.2	15	26.8	12	23.1	13	25.0
2, 他にしたい仕事があるから	41	77.4	44	78.6	42	80.8	41	78.9
3, 将来性が乏しいと思うから	9	17.0	5	8.9	7	13.5	5	9.6
4, 仕事がキツい	1	1.9	6	10.7	1	1.9	6	11.5
5, 賃金や休みなどの待遇が悪い	6	11.3	4	7.1	4	7.7	5	9.6
6, 両親や親族が反対している	1	1.9	2	3.6	1	1.9	1	1.9
7, その他	1	1.9	1	1.8	1	1.9	1	1.9

表9　従事する人を増やすための改善点（複数回答可）

	繊維業		機械・金属業		観光業		農業	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1, 賃金	100	39.0	97	37.5	91	35.1	107	41.3
2, 勤務時間・休暇	44	17.0	59	22.8	52	20.1	44	17.0
3, 職場環境（工場内外の美観）	47	18.2	66	25.5	38	14.7	35	13.5
4, 産業の将来性	107	41.3	84	32.4	78	30.1	92	35.5
5, 資格を取れる	29	11.2	34	13.1	24	9.3	22	8.5
6, その他	10	3.9	10	3.9	10	3.9	11	4.3
回答数	180	69.5	182	70.3	167	64.5	172	66.4
無記入数	79	30.5	77	29.7	92	35.5	87	33.6
合計	259		259		259		259	

ようになっており、もっとも多かったのは「サービス業」で55人（15.9%）、次いで「医療・福祉」で44人（12.7%）であった。「工業・製造業」は33人（9.5%）、「農業」は4人（1.2%）であった。

むすびにかえて

以上、丹後地域の主要産業に関する現役高校生の意見をまとめた。その結果、繊維業については、かつては従事していた祖父母などが多かったが、現在ではその数も減ってきていることが示された。これは、長期にわたる繊維業の衰退から当然予想されることである。高校生も繊維業の将来性について不安を抱いており、この産業に従事したいと思う生徒の比率は、血縁者が従事していた場合で1.6%、従事していない場合で、1.1%と非常に低かった。機械・金属業や観光業と比べても、その比率は低かった。その理由については、過去あるいは現在に血縁者がその業界に従事していたかどうかにかかわらず、特に産業の将来性を心配している傾向を読み取ることができる。

一方、機械・金属業について、この業種に従事したいという回答の比率は、血縁者が従事していた場合で9.8%、従事していない場合で、6.1%と繊維業に比べると高く、丹後地域での主要産業の交代がこの点にも現れていた。観光業では、血縁者が従事していた場合で3.0%、従事していない場合で、5.3%という比率であった。農業は、血縁者が従事していた場合では3.5%であったが、従事していない場合は1.1%と非常に低い値であった。

今回の調査は、高校2年生という、将来について明確な見通しをもっている人の少ない世代が対象であった。そのため、各業界への就職の意思については、まだわからないという回答が多かった。しかし、各業界への若者の意識の一端を反映する結果が得られたと思う。ここでは単純集計のみしか行っていないが、他の要因も考慮した詳細な分析を別の機会に行いたい。

(付記)

年度末、学期末のお忙しい時期に、アンケートにご協力いただいた、京都府立峰山高校の、先生、生徒の皆様に感謝申し上げたい。なお、本稿にかかわる問題点はすべて、筆者の責任である。

注

1）丹後の絹織物業の歴史については北野裕子「縮緬業の歴史にみる丹後の地域力―発展の内的要因」松岡憲司『地域産業とイノベーション』日本評論社（2004年）を参照されたい。

表10　将来（大学卒業後も含む）、希望する職種（複数回答可）

	回答数	比率（%）
1, 農業・林業・水産業・鉱業	4	1.2
2, 工業・製造業（伝統工芸を含む）	33	9.5
3, 商業・販売・流通業（小売店・卸業・商社など）	34	9.8
4, 運輸・交通・輸送業	5	1.4
5, 金融業（銀行・郵便局・信用金庫など）	10	2.9
6, 土木・建設・建築業	10	2.9
7, 情報・通信・IT・コンテンツ産業	21	6.1
8, サービス業（美理容・飲食・観光・旅館など）	55	15.9
9, 医療・福祉（医師・看護師・介護士・福祉士・ヘルパーなど）	44	12.7
10, 保育・学校教育（保育士・幼・小・中・高・専門・大学教員など）	32	9.2
11, 公務員・公共機関（行政・警察・消防など、10の教員は除く）	21	6.1
12, まだわからない	58	16.7
13, その他	20	5.8
合計	347	100.0